



ftServer におけるログ取得方法の概要(ESX 編)

内容: ftServer に関する障害調査を行う際に、必要となるログ・データの取得方法になります。初期解析用のデータの取得方法と、詳細な調査を行うときのデータ取得方法があります。

Rev 0.2: 2011/04/27

■ ESX 編

サービス・コンソールへ `ftadmin` アカウントでログインしたあと、次のコマンドで `root` アカウントになってください。

```
# su -  
<root password>
```

● 初期解析用データ取得方法

次の方法でログを取得します。

1. 次のコマンドで作成される `/tmp/sralog.tgz` を取得します。

```
# cd /  
# rpm -qa > /tmp/rpm-qa.txt  
# ftsmaint lslong > /tmp/ftsmaint.txt  
# tar czf /tmp/sralog.tgz  
./var/log/messages* ./var/opt/ft/log/ring_buffer*  
./var/opt/ft/log/osm.log* ./tmp/rpm-qa.txt ./tmp/ftsmaint.txt
```

注釈: `tar` コマンドの記述はファイル名が分かりやすいように改行を入れて記載していますが、実際に取得するには、ファイル名の後はスペースを入れて、連続して入力してください。

2. ログの取得後、作成したファイルを削除します。

```
# rm -f /tmp/sralog.tgz /tmp/rpm-qa.txt /tmp/ftsmaint.txt
```

● 詳細なデータ取得方法

Stratus のサポート・センタより、必要に応じて次のログ・データの取得を依頼することがあります。

1. Buggrubber によるログの取得

1.1 ftESX 2.0 以前

- 1.1.1 次のスクリプトでログを採取します。ディレクトリ/home/BugPool/Bug_YYYYMMDD (たとえば Bug_20100531)にログファイルが集められます。

```
# /opt/ft/sbin/buggrabber.pl
```

- 1.1.2 次のコマンドでログファイルをまとめます。(Bug_YYYYMMDD の部分は今作成されたディレクトリ名を入れてください。)

ここで作成された/home/BugPool/Bug_YYYYMMDD.tgz を取得します。

```
# cd /home/BugPool
# tar czf ./Bug_YYYYMMDD.tgz ./Bug_YYYYMMDD
```

- 1.1.3 ログの取得後、作成したファイルを削除します。

```
# rm -rf ./Bug_YYYYMMDD ./Bug_YYYYMMDD.tgz
```

1.2 ftESX 3.0 以降

- 1.2.1 次のスクリプトでログを採取します。ディレクトリ/home/BugPool/Bug_YYYYMMDD.tar (たとえば Bug_20100531.tar)にログファイルがまとめられます。このファイルを取得します。

```
# /opt/ft/sbin/buggrabber.pl
```

- 1.2.2 ログの取得後、作成したファイルを削除します。

```
# rm -rf ./Bug_YYYYMMDD.tar
```

2. VMware のログの取得

/usr/bin/vm-support のログは buggrubber.pl の中で取得されます。

もし、vm-support のログを単独で取得する場合は、サービス・コンソールよりログインし、root アカウントの権限で、vm-support を実行してください。コマンド実行時の出力メッセージの中に、出力ファイルのパス名が表示されます。

ログファイルは/tmp/esx-YYYY-MM-DD--HH.MM.xxxx.tgz という形式の名前で作成されます。このファイルを取得します。

[注意] このコマンドを実行すると、ftServer の CPU エンクロージャの片系が一度切り離され、自動的に二重化に復旧します。
また、実行時に予期せぬエラー・メッセージが記録されることがあります。

[備考] スクリプトに次の修正を行うと、CPU エンクロージャが切り離される問題を回避することができます。

```
# cp /usr/bin/vm-support /tmp/tmp-vm-support
# chmod a+x /tmp/tmp-vm-support
```

/tmp/tmp-vm-support を次のように修正します。

```

720c720
<   runcmd "/usr/lib/vmware/bin/vsi_traverse -s" "$tmp_dir/vsicache.$$"
---
> #   runcmd "/usr/lib/vmware/bin/vsi_traverse -s"
"$tmp_dir/vsicache.$$"
722c722
<   runcmd "/usr/lib/vmware/bin/vsi_traverse -s"
"$tmp_dir/vsicache-5-seconds-later.$$"
---
> #   runcmd "/usr/lib/vmware/bin/vsi_traverse -s"
"$tmp_dir/vsicache-5-seconds-later.$$"
1203,1205c1203,1205
<   if [ -x /usr/lib/vmware/bin/vsi_traverse ]; then
<       /usr/lib/vmware/bin/vsi_traverse -s > $dstDir/vsi/vsi.$num
<   fi
---
> #   if [ -x /usr/lib/vmware/bin/vsi_traverse ]; then
> #       /usr/lib/vmware/bin/vsi_traverse -s > $dstDir/vsi/vsi.$num
> #   fi

```

/tmp/tmp-vm-support を実行します。